

頑張ったシール



恵庭市医師会
石川こどもクリニック

いし かわ より かず
石 川 順 一

6回目の年男になります。小児科医として46年、前半は小児がんの治療を専門にしていました。その後開業して25年経ちました。乳児の鼻づまりに対する麻黄湯の効果に驚き、以後漢方薬を中心とした医療を行っています。

幼児は白衣が嫌いなので、私服で診察する開業小児科医師が増えてきています。私も開業して10年程は白衣を着ていたのですが、少しでも子供たちがリラックスできるようにリラックマのTシャツを着てみました。意外と好評でしたが、やはりいい歳をして恥ずかしい、あるいはみっともないという気がしてやめようかと思いましたが、内科医ならばおかしいけれど、小児科医だからいいかと、自分に言いきかせてなんとか続けていました。そんなある日2歳の子供が来院。泣かないで診察終了。母親が「この子はどこの病院に行っても泣き叫んでいるのに今日は泣かなかった」とびっくりしたように話してくれました。それ以来、自信をもってリラックマのTシャツを着て診察できるようになりました（余談ですが、この子は現在中学1年生になりましたが、バレンタインデーには毎年手作りのチョコレートをもってきてくれます）。

子供たちに喜んでもらうためにTシャツ以外に初めて当院を受診したとき、痛い検査をしたとき、苦い漢方薬を飲むと約束したときなどにシールをあげることにしました。最初はMRさんが持ってきてくれるものをあげていましたが、今は自分で種々のシールを購入し、頑張ったシール、薬を飲めたらシール、バースデイシールなどと名付けてあげています。男児にはウルトラマン、トミカ、新幹線、トーマス。女児にはキティ、マイメロディ、ミッフィー、すみっこぐらし。男女共通でドラえもん、ポケモンを用意して選んでもらっています。男児は乗り物が好きですが、女児はその時々で流行のもの（今はすみっこぐらし）を選ぶようです。毎回シールを要求する子にはアンパンマンシールの台紙をあげて20のキャラクターのうち来院するたび1枚ずつあげて貼ってもらっています。20枚揃えて喜んでいる子も数人います。

小児（特に幼児）の診察に際しては嫌がる部位、今痛い部位は最後に診るのが鉄則です。以前は咽喉でしたが、インフルエンザ診断キットが診療に導入されて以来、鼻腔もその仲間入りしました。最近ではアデノウイルス、RSウイルス、ヒトメタニューモ

ウイルスの診断キットがでてきて子供たちは大変です。診察室に入ってきた瞬間、鼻と口を手で隠す子がいます。私は溶連菌、インフルエンザ以外は初診から積極的に検査しないほうですが、検査をして泣いている子、今にも泣きそうになっている子に頑張ったシールをあげると言うと、泣きやんだり、目が輝いてきます。それを見るのが楽しみの一つです。

ここ2年間インフルエンザが全く流行せず、シールをあげる機会が減ってしまいました。ある時看護師に「先生シールあげなくて寂しそうですね」と言われ、子供たちに喜んでもらうつもりで始めたシールでしたが、実は私が子供たちの笑顔から元気をもたらしていたのだと気づきました。

あと何年開業医を続けていけるかわかりませんが、これからもシールで子供たちと一緒に楽しみたいと思っています。

